

調査概要・参考文献

【学生調査】 ※現在と同様の調査は2012年卒より実施

2025年卒(大学生・大学院生)の就職活動振り返り調査

調査目的：就職に関する学生の活動実態を把握する

調査方法：インターネット調査

調査協力：株式会社インテージ

調査対象：調査協力会社のモニターにスクリーニング調査を行い、民間企業等を対象に就職活動を行った全国の大学4年生・大学院2年生

調査期間：2025年卒－2024年11月22日～2024年12月4日

2024年卒－2023年11月22日～2023年12月4日

2023年卒－2022年11月21日～2022年12月5日

集計対象：2025年卒－1,835人、2024年卒－1,802人、2023年卒－1,618人

【企業調査】

大学生・大学院生の採用活動振り返り調査

調査目的：新卒採用に関する企業の活動実態を把握する

調査方法：郵送調査・インターネット調査を併用

調査協力：株式会社電通マクロミルインサイト

調査対象：全国の新卒採用を実施している従業員規模5人以上の企業

2025年卒－4,876社、2024年卒－4,826社、2023年卒－4,851社

調査期間：2025年卒－2024年12月2日～2025年1月10日

2024年卒－2023年12月1日～2024年1月10日

2023年卒－2022年12月2日～2023年1月11日

回収社数：2025年卒－1,510社(回収率31.0%)

2024年卒－1,488社(回収率30.8%)

2023年卒－1,569社(回収率32.3%)

【就職プロセス調査】

調査目的：大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する

調査対象：大学生および大学院生に対して、『リクナビ』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生

《集計方法について》

- 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体の構成比が実際の母集団に近づくよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行った。大学生と大学院生を合わせた学生全体については、大学生と大学院生の構成比に関して、同様のウェイトバック集計を行ったため、大学生と大学院生の合計値が、学生全体の値と一致しない場合がある。

《調査結果を見る際の注意点》

- %を表示する際に小数第2位で四捨五入しているため、%の合計値や差の数値と計算値が一致しない場合がある。
- 図表の一部で、今回調査と過去調査のポイント差をカッコ内に記載した。
- データは無回答サンプルを除いて集計している。
- サンプル数50未満の集計値は参考値として取り扱う。
- 企業は従業員規模の無回答企業があるため、従業員規模別の計と全体は一致しない。
- 無回答項目はグラフ・数表内で「－」と表記。
- 2025年卒業や2026年卒業を「2025年卒」「2026年卒」と表記。
- キャリア形成支援プログラムとは、インターンシップをはじめ、オープン・カンパニー、キャリア教育を含むキャリア形成支援に係る取り組みの総称を指す。



【企業情報の開示と組織の在り方に関する調査 2024】

個人調査

調査方法：インターネット調査

調査協力：株式会社マクロミル

調査対象：就職活動中の学生、20代～60代の求職者を含む働く個人

調査期間：2024年3月23日～3月25日

有効回答数：1,033人

人事調査

調査方法：インターネット調査

調査協力：株式会社マクロミル

調査対象：採用、人材育成・研修、人事制度の構築や運用を主の業務とする人事担当者

調査期間：2024年3月23日～3月25日

有効回答数：1,038人

【大学の就職・キャリア支援状況に関する調査 2024年度】

調査目的：キャリアセンターにおける支援の現状や抱えている課題について実態を明らかにする

調査方法：インターネット調査

調査期間：2024年9月9日～9月30日

集計対象：119校

【2023年入学 大学2年生の大学生活等に関する調査】

調査目的：大学2年生の大学生活や価値観、将来イメージ等を明らかにする

調査方法：インターネット調査

調査対象：全国の2023年大学入学の大学2年生

調査期間：2024年6月5日～6月17日

有効回答数：1,081人

【参考文献】

Kolb, D. A. (2014). *Experiential learning: Experience as the source of learning and development*. FT press.

鶴光太郎. (2016). 『人材覚醒経済』. 日本経済新聞出版社.

鶴光太郎. (2023). 『日本の会社のための人事の経済学』. 日本経済新聞出版社.